Profile

井出農園

スダチ農家井出雅文さん。関西外国語大学卒業後、東京でキャリアコンサルタントとして働いた後、2020年にUターン。阿南市は神山、佐那河内に次ぐスダチの産地。ふるさとの加茂谷も盛んだ。しかし、高齢化と担い手不足でここ10年で特に阿南市の露地スダチ農家は、ゼロになるかもと言われている。スダチの産地を未来に残すため、井出さんはさまざまな仕組みづくりに着手している。

既存のこだわりを捨て
人とITでスダチを未来へつなぐ

キーワードは、農業のスマート化と持続可能化。収穫や選別、施肥、消毒を行うロボットを利用してスダチの大量生産を目指す。衛星データも含まれる最先端ロボットは、これらの作業がスマートフォンひとつでできるものもあるという。ロボットが井出さんのスダチ畑で見られるのもそう遠い未来ではなさそうだ。

収穫ボランティアは、国籍を問わずさまざまなバックボーンを持つ人々が他人との繋がりを求めて集う。収穫作業だけでなく、遍路道の整備や空き家の片付け、耕作放棄地の草刈りなども手伝い、活動の最後には車座になり語り合う。そこには、自分の言葉で語り合うことを通じ、「自分と向き合い考えを整理し、次のステップに進むきっかけになれば」という井出さんの思いがある。

大井町には、公共交通機関はない。子どもの数が減り、大井小学校はずいぶん前に休校となった。「生きるという事は、未来をあきらめず、清々しい朝を迎えるということです」という井出さん。ＥＳＧ経営を支援する阿南市の創業補助金を使いボランティアの宿泊所を整備し、ボランティア制度を強固なものにしていく。社会や環境に対して公益性のある企業を認証する世界的な認証制度B-Corp(ビーコープ)の取得や町全体を宿泊施設に見立て持続可能なまちづくりをする『アルベルゴ・ディフーゾ』など、夢はまだまだ続く。